

やすらぎ短信

平成28年
3月号

三月三日 桃の節句

三月三日は、五節句のうちの上巳(じょうし)

の節句にあたります。一般的には桃の節句、雛

祭りの日です。女の子の健やかな成長に感謝し

お祝いする行事ですが、もともとは「お祓い」

の行事でした。旧暦ではこの時期、田植の前に

あたり、田の神様をお迎えるために、不浄が

あつてはならないと、紙を切り抜いた人形(ひ

とがた)で身体をなでまわし、罪(つみ)穢れ

(けがれ)を移して、川や海に流すことが行わ

れておりました。この人形(ひとがた)がだん

だん豪華になり、現在のような美しい雛人形を

飾る雛祭りとなりました。雛祭りの日には、お

人形さんに子供の厄災を持ち去って頂き、健康

に成長で

きますよ

うに手を

合わせま

しょう。



昭和初期の雛人

社日祭について



昨年春の社日祭(浦幌神社境内)

社日とは、一年に春と秋の二回あり、春分の

日(三月二十日頃)、秋分の日(九月二十三日

頃)にそれぞれ最も近い戊(つちのえ)の日をさ

します。この日に行われているお祭りが、社日

祭で、土地の神様・農耕の神様をおまつりしま

す。春の社日の時期は、種まきの時期にあたる

ことから、作物の育成を祈り、秋の社日の時期

は、収穫の時期にあることから収穫の感謝と作

業の安全を祈ります。浦幌町内の社日碑は、

浦幌神社の境内に二基(元帯富・千歳の社日碑)、

常室・万年・稲穂・養老の地区にそれぞれ一基

お祀りされております。

宮司の一筆

「頂きます。「ちこそつちま。」

「生きることは食べる」とよく耳にしま
すが、作物は、天と地の恵みがなければ育ちま
せん。天からの恵みである日光や雨、地(土)
からの恵みである栄養分。沢山の恵みを受けて
作物は生産されます。生産者である農家の方々
は日々、自然の恵みに感謝をしながら、生業に
勤しんでおり、毎年春秋に社日の神様に感謝す
るお祭りを行ってきました。私を含め消費者で
ある我々は、この有り難い天地の恵みを、当た
り前すぎて、忘れてしまいがちです。食前に手
を合わせる所作ですら、忘れてしまっている方
が多いのではないのでしょうか。日本は、「衣食
住」すべて豊かな国です。世界に誇れる豊かな国
だからこそ、「祈る心」「感謝する心」のありか
たを大事にしていかなければならないと思
います。「祈る心」「感謝する心」があれば、
自然と心が豊かになります。難しく考えず、た
だ素直に一日一回でもいいから食事の時に「頂
きます。ごちそうさま。」を言葉に出して、感
謝する心を示したいものです。

三月二十日 春分の日



春分の日、昼と夜の時間が同じになる日、この日を中日に前後三日間を彼岸といひます。宮中では、春分の日、春季皇霊祭が行われ、天皇が宮中の皇霊殿で歴代天皇らの御霊をおまつりする儀式が行われます。日本では、古くからこの日にお墓や仏壇にお供えし、ご先祖様をおまつりします。日頃よりお守り下さっているご先祖さまに感謝の祈りを捧げましょう。

浦幌神社行事

- 三月一日 月次祭
- 三月四日 浦幌神社氏子会役員会
- 三月十一日 浦幌神社氏子会定期総会
- 三月十五日 月次祭
- 三月下旬 春季社日祭

かがり火の薪割り奉仕

先月、やすらぎ会（岡本幸雄代表）・芳賀利章理事のご奉仕により、かがり火の薪割りをご奉仕頂きました。当社では、正月にかがり火と参拝者の暖をとるために薪を焚いております。薪の在庫もあと一年分となり、困っていたところ、稲穂の福田実様より、木材を奉納頂き、やすらぎ会が三日間に亘り、薪割りのご奉仕を頂きました。ご奉仕に心より感謝申し上げます。



水子神社賽銭箱修理奉仕

先月、宏昌鉄工場により、破損した水子神社の賽銭箱の修理をご奉仕頂きました。水子神社では、年中水子の慰霊祭が行われており、全道各地からお参りに来られております。ご奉仕に心より感謝申し上げます。



水子神社

飾らなくなったお雛様は？

家で飾らなくなったお雛様はどうしたらよいのでしょうか？

お困りの方は、浦幌神社へご連絡ください。当社では、お雛様やその他のお人形をお祓いし、お焚き上げを致しております。

年中受付けておりますので、ご相談ください。

発行 浦幌神社社務所

北海道十勝郡浦幌町字東山町十八番地の一

電話 〇一五・五七六・二四四八